

# 小学校学習指導要領実施状況調査 結果のポイント

国立教育政策研究所 教育課程研究センター

## I. 調査の概要

### 1. 調査の趣旨

小学校の学習指導要領の検証のため、指導要領の改善事項を中心に、各教科の目標や内容に照らした児童の学習の実現状況について調査研究を行い、次期指導要領改訂の検討のためのデータ等を得る。

### 2. 調査の内容

各教科で下記の①～③の視点に基づくペーパーテスト調査を実施。あわせて、児童、教師、学校長を対象とした質問紙調査を実施。

- ① 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項  
(例) 思考力・判断力・表現力等の育成等
- ② 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項
- ③ 従来より課題と指摘される事項や、経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

### 3. 調査対象学年、教科及び調査実施日

平成25年2月18日(月)～3月8日(金)

- ・ 第4学年 国語, 社会, 算数, 理科
- ・ 第5学年 社会, 算数, 理科
- ・ 第6学年 国語, 社会, 算数, 理科, 音楽, 図工, 家庭

### 4. 調査実施校及び調査対象児童数

911校(全学校の約4.2%), 111,797人(対象学年の約3.2%)

※1教科1問題冊子当たり, 3,000人程度の調査結果を得ることができるよう, 国立教育政策研究所において調査対象校を無作為抽出。

# 小学校学習指導要領実施状況調査

## 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（国語）

- ・ 目的や意図に応じて相手の話の内容を聞き取ることや、問われたことに対して情報を正確に取り出すこと等については、相当数の児童ができている。
- ・ 目的に応じて文章を要約するなど課題解決に向けて主体的に文章を読むことや、ポスター・リーフレットなど文章の種類や特徴に応じて効果的に文章を書くこと等については、課題があると考えられる。

### A-1. ペーパーテスト調査結果の概要（国語）

#### 1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

##### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的や意図に応じて、相手の話の内容を聞き取ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を明確にし、その解決のために必要な情報を判断し、目的に応じて情報検索の手段を活用して必要な情報を集めること</li> <li>・ 課題解決に向けて主体的に文章を読むこと（目的に応じて文章を要約したり、説明的な文章について必要な箇所を見つけて読んだりすることなど）</li> </ul>

##### (2) 実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力（「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」）の育成

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図表を用いて自分の考えが伝わるように文章を書いたり、略述して簡潔に書いたりすること</li> <li>・ 問われたことに対して情報を正確に取り出すこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いた内容を目的に応じて活用しやすいようにメモにまとめること</li> <li>・ ポスターやリーフレットなどの文章の種類や特徴に応じて、効果的に文章を書くこと</li> <li>・ 十進分類法を活用して必要な図書資料を探す場面において、目的に応じ、必要な本や資料を検索すること</li> </ul>

#### 2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間の経過による言葉の変化や比喩などの表現の工夫に気付くこと【新設:5,6年】</li> <li>・ 清音のローマ字を読むこと【移行:4年→3年】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図鑑の使い方を解説した冒頭のページの特徴を生かして、必要な情報を得ること【新設:5,6年】</li> <li>・ 促音を含んだ語をローマ字で書くこと【移行:4年→3年】</li> </ul>

#### 3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見と比べながら聞き、自分の考えをまとめること【従来より課題】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話合いの流れ全体を踏まえ、話し手の意図を明確に押さえた上で質問すること【従来より課題】</li> <li>・ 日常の一場面を切り取って描くなど、展開の起伏の少ない物語等において、登場人物相互の関係を物語全体の展開からとらえて読むこと【従来より課題】</li> </ul>

### A-2. 指導上の改善点（国語）

#### 1. 児童自身が目的や必要感をはっきりと意識して取り組める言語活動の設定

- ・ 児童自身の目的意識や必要感を十分に喚起するため、児童の課題意識をかき立てる言語活動を単元に位置付けて指導を行うなど、学習指導の工夫が重要。

#### 2. 指導のねらいにふさわしく、かつ、児童自身にとっての課題解決の過程となるような、単元を貫く言語活動を位置付けた学習過程の工夫

- ・ 児童が言語の知識や技能を使いこなせるようするためには、単元全体を通した一貫した課題となる言語活動（単元を貫く言語活動）を位置付けることにより、課題解決の過程を明確にした指導計画を工夫することが重要。
- ・ その際、児童が、当該単元で付けるべき国語の能力を確実に身に付けられるよう、指導事項等を明確に把握し、ねらいにふさわしい言語活動を吟味して位置付けるとともに、児童が自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に取り組むことができるよう留意することが重要。

#### 3. 場面や状況、必要な条件などを踏まえて話したり聞いたり、書いたり読んだりする学習指導の工夫

- ・ 目的に応じて必要な箇所を的確に判断して読むこと等ができるよう、どのようなことを念頭において言語活動を行うべきかといった、学習の見通しを立てたり、課題解決に向けて学んだことは何かといったことを、学習指導のねらいに即して振り返ったりすることができるような活動を位置付けることが重要。
- ・ 学習活動の中に話し合いなどの交流を位置付ける場合も、何のために、誰と、どのように交流するのかといったことを明確に意識できるようにすることが重要。

#### 4. 読書に親しむ態度を育成する指導の充実

- ・ 多様な読書経験を通し、様々なものの見方や考え方に触れ、読む能力やその基盤となる思考力や判断力を育むことが重要。そのため、指導のねらいを明確化し、読書活動を国語科の授業に明確に位置付けるとともに、「大好き」「心に残る」といった思いを膨らませ読書に親しめるようにすることが重要。
- ・ その際、教科書教材と関連する本を選んで読む並行読書を効果的に取り入れることが重要。また、国語科における読書活動は、あくまでも国語科のねらいを実現するための手立てとして取り入れるものであることを踏まえ、特定の読書活動を行うことが目的化することのないよう留意することが必要。

#### 5. 本の題名や見出し、目次や索引などを用いて、主体的に情報を活用するための系統的な指導の充実

- ・ 十進分類法を活用したり、図鑑の読み方を解説したページを使いこなしたりするなど、情報を主体的に活用する能力を育むことが重要であり、児童の発達の段階を踏まえ、低学年から継続的・系統的に指導することが重要。
- ・ その際、単に検索方法の知識を取り出して指導するのではなく、課題解決の過程の中で、情報検索が必要な場面を設定して指導するよう留意することが必要。

#### 6. 六年間の系統性を見通し、各教科等との関連を図った指導計画の作成

- ・ 小学校の六年間を見通し、各学年の発達の段階を踏まえながら、年間を見通して指導を行うことが重要。また、国語科で身に付けた国語の能力を、各教科等の学習において活用したり、各教科等の学習場面と効果的に関連させたりすることも重要。

# 小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（社会）

- ・ 示された学習問題の解決を見通して調べる事柄や資料を選ぶことや、グラフや年表から情報を読み取ること等については、相当数の児童ができてい
- る。
- ・ 資料から読み取った情報を比較・関連付け・総合したりして社会的事象の働きや役割などを考え表現することや、地図から読み取った情報を適切に表現すること等については、課題があると考えられる。

## B-1. ペーパーテスト調査結果の概要（社会）

### 1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 示された学習問題の解決を見通して、調べる事柄や資料を選ぶこと</li> <li>・ 文化遺産（有形・無形）の保存や継承の意義を考え表現すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料から読み取った情報を、比較したり、相互に関連付けたり、総合したりして、社会的事象の働きや役割などを考え表現すること</li> </ul>

#### (2) よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎の育成

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎に関連する「社会的事象への関心」については、「我が国と外国との関係」への関心は他の調査事項（注）と比べて高いが、「我が国の政治」、「我が国の水産業」への関心は他の調査事項（注）と比べて低い。</li> </ul> <p><small>（注）他の調査事項…「昔の人々のくらし」、「地域の行事や活動への参加」、「我が国の農業」、「我が国の工業」、「我が国の伝統や文化」</small></p>
---

### 2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「災害及び事故の防止に関わる地域の協力活動」（地域の協力活動と自分たちの生活や行動との関わり）【新設:3,4年】</li> <li>・ 「主な地図記号」【新設:3,4年】</li> <li>・ 「事故の防止や廃棄物処理のための法やきまり」【新設:3,4年】</li> <li>・ 「世界の主な大陸と海洋」【新設:5年】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「47都道府県の名前と位置」【新設:3,4年】 ※改善傾向にある（通過率60%以上の都道府県が増加（12（H18）→20（H24））</li> <li>・ 「主な国の名前と位置」【新設:5年】</li> <li>・ 「産業における価格や費用」【新設:5年】</li> <li>・ 「国民の司法参加」（裁判員制度）【新設:6年】</li> </ul>

### 3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グラフや年表から情報を読み取ること【従来より課題】</li> <li>・ 「日本国憲法の基本的な考え方」【経年比較】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「明治期以降の歴史上の人物と業績」の一部（同時期に活躍した人物の理解）【従来より課題】※全体としては改善傾向にある</li> <li>・ 地図から読み取った情報を適切に表現すること【従来より課題】</li> </ul>

## B-2. 指導上の改善点（社会）

### 1. 情報を基にして社会的事象の意味を考え表現できるようにする指導の充実

- ・ 情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特徴、働き、役割、因果関係、条件などを考え表現できるようにする指導が重要。
- ・ 調べたこと、分かったことや考えたことを根拠として示しながら説明できるように引き続き指導することが必要。また、学習した用語・語句を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明できるようにする指導が重要。

### 2. 基礎的な知識や技能を確実に身に付けるようにする指導の充実

- ・ 社会的事象に関する基礎的な知識については、授業の中で繰り返し指導したり、用語・語句の意味に留意して指導したりして、確実に身に付けるようにする指導が重要。
- ・ 資料から情報を読み取る技能については、資料に応じた読み取り方や複数の資料を関連付けた読み取り方を指導して、社会的事象に関する情報を的確に読み取ることができるようにしていくことが重要。
- ・ 情報を効果的に活用する技能については、必要な資料を選んだり吟味したりできるようにする指導が重要。また、情報を整理し、目的を明確にして発信することについても指導することが必要。

### 3. 問題解決の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする指導の充実

- ・ 社会的事象から学習問題を見だし、その解決の見通しをもつように引き続き指導することが必要。
- ・ 学習したことを振り返り、様々な情報を総合して、社会的事象の意味（目的、働きなど）を考え、表現できるようにする指導が重要。

### 4. よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てる指導の充実

- ・ 社会の一員として、社会的事象の意味を考えるように引き続き指導することが必要。
- ・ 社会的事象への関心を高め、主体的、協同的に学ぼうとする態度を養う指導が重要。
- ・ 社会的な見方や考え方を養い、社会生活についての理解を図る指導が重要。こうしたことを通じて、人々が相互に関わりをもちながら生活を営んでいることを理解するとともに、自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献しようとする態度を育てるようにしていくことが重要。

# 小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（算数）

- ・ 等しい比について考え説明することや、「帯分数を含む分数の乗法及び除法」、「直線の平行や垂直の関係」、「異分母の分数の加法及び減法」、「円の面積の求め方」、「起こり得る場合」等については、相当数の児童ができています。
- ・ 目的に応じてグラフを用いて考え説明することや、分数の除法の意味や割合に関する問題、「□や△などを用いた式の理解」、「四則計算の結果の見積り」、「単位量当たりの大きさ」等については、課題があると考えられる。

## C-1. ペーパーテスト調査結果の概要(算数)

### 1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 等しい比について考え説明すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的に応じてグラフを用いて考え説明すること</li> </ul>

#### (2) スパイラルによる教育課程の編成(知識・技能の確実な定着や数学的な思考力・表現力の育成等)

- ・ 「反復(スパイラル)による学習指導」が行われているもののうち、以下のものについては、学年が上がると通過率が高い傾向が見られる。  
(学年が上がると通過率が高い傾向が見られるものの例)  
「分数と整数の乗法及び除法の計算」、「小数の乗法及び除法に関する計算の仕方の説明」、「作図の方法」、「数量の関係を表すこと」

### 2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「帯分数を含む分数の乗法及び除法」【新設:6年】</li> <li>・ 「同分母の分数の加法」、「直線の平行や垂直の関係」【移行:5年→4年】</li> <li>・ 「異分母の分数の加法及び減法」【移行:6年→5年】</li> <li>・ 「円の面積の求め方」【移行:5年→6年】</li> <li>・ 「起こり得る場合」【移行:中2年→6年】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「□や△などを用いた式の理解」【新設:4年】</li> <li>・ 「四則計算の結果の見積り」(場面に応じて適切な式を考えること)【移行:5,6年→4年】</li> <li>・ 「大きさの等しい分数」(分数の大きさを図を用いて表すこと)【移行:5年→4年】</li> <li>・ 「体積の単位」、「単位量当たりの大きさ」【移行:6年→5年】</li> </ul>

### 3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 点対称の作図の問題【経年比較】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分数の除法の意味や割合に関する問題【従来より課題】</li> <li>・ 倍という言葉の問題文を含む場合における除法の立式【従来より課題】</li> <li>・ 問題場面から式を立てる問題【経年比較】 ※但し、前回(H15)を有意に上回っている</li> </ul>

## C-2. 指導上の改善点(算数)

### 1. 指導内容のより確かな理解のための算数的活動の充実

- ・ 算数の知識をもとに発展的・応用的に考えたりする活動や、考えたことを表現したり説明したりする活動など、算数的活動を通じた指導の一層の充実が求められる。
- ・ 算数科における言語活動については、活動させる前に言葉で表現させたり、活動したことを言葉で振り返らせたり、それらを相互に吟味させたりすることが重要。また、正しく用語を使えるようにするとともに、用語の意味の理解の指導にも力を入れることが必要。

### 2. 学習内容を振り返り、理解を深める活動の充実

- ・ 新たな学習した内容とこれまで学習した内容を関連づけ、問題解決の際に活用できるよう、学習内容を振り返る活動を取り入れることが必要。
- ・ その際には、学習内容をただ思い出し確認するだけでなく、理解を深める活動を充実させることが重要であり、毎時間の学んだことと既習の学習とをつなげてその意味を考え、知識を整理しようとする態度を養うことが必要。

### 3. 多様な表現ができる児童の育成

- ・ 式で表されたことを図にしたり、図に表されたことを式にしたりするとともに、その意味を読み取るなどして、言葉や数、式、図、表などの相互の関連を理解することができるようにする指導が重要。

### 4. 児童が問題解決の主体者となるために素朴な疑問や好奇心からの問題設定

- ・ 思考力を重視した指導が浸透しつつあることがうかがわれるが、一方で、算数の授業の目的が問題を解くことに偏りがちであるのも否定できない。低学年の頃から、児童の疑問や好奇心から問題設定を行うなどの指導を行うことが、主体的に問題解決を行う児童を育てることにつながると考えられる。

### 5. 問題解決的な学習の充実

- ・ 問題解決の過程では、試行錯誤をしたり、資料を収集整理したり、実際に具体物を操作したり、実験したり、観察したりするなどの算数的活動が行われる。このような問題解決の過程を児童が主体的に行うことができるように、指導を充実させることが重要。

### 6. コンピュータの適切な活用の充実

- ・ コンピュータなどを用いて、知識・技能の活用を図ったり、児童の能力を創造的に発揮させたりすることが重要。
- ・ その際には、コンピュータの持つ機能を効果的に活用することによって、数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表現する力を高めたりするよう、指導を工夫することが重要。

# 小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（理科）

- ・ 実験結果のグラフから要因を考え予想することや、予想に対する検証方法を計画し観察・実験を実施すること、身近な現象に目を向け学んだことを生活に適用すること、観察・実験の記録の技能等については、相当数の児童ができています。
- ・ 比較対象の設定や条件の制御をすることや、科学的な言葉や概念を的確に記述すること、事象の変化を要因と結び付けて的確に表現すること、一部の観察・実験器具の操作の技能等については、課題があると考えられる。

## D-1. ペーパーテスト調査結果の概要（理科）

### 1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験結果のグラフから要因を、考え予想すること</li> <li>・ 予想に対する検証方法を計画し、観察・実験を実施すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較対照の設定や条件の制御をすること</li> <li>・ 結果を分析し、予想や仮説に照らし合わせた考察をすること</li> <li>・ 科学的な言葉や概念を的確に記述することや、事象の変化を要因と結び付けて的確に表現すること</li> </ul>

#### (2) 学習内容と実際の自然や生活との関係を捉えること

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な現象に目を向け学んだことを生活に適用すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察の視点を明確にもち、自然事象に関して実感を伴って理解すること</li> </ul>

#### (3) エネルギーの利用や環境保全に着目し考察すること

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エネルギーの変換に関する内容等を理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エネルギー効率に着目した考察や食物連鎖を理解すること</li> </ul>

#### (4) 観察・実験の技能の育成

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察・実験の記録の技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一部の観察・実験器具の操作の技能</li> </ul>

### 2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「人の体のつくりと運動」【新設:4年】</li> <li>・ 「天気の様子」【移行:5年→4年】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「流水の動き」(川原の石の形状の成り立ち)【一部追加:5年】</li> <li>・ 「てこの規則性」(てこのつり合いを一般化し式を導く)【移行:5年→6年】</li> </ul>

### 3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「月と太陽」【経年比較】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「電流の動き」(条件に着目した実験を計画すること等)【経年比較】</li> <li>・ 「土地のつくりと変化」(地震や火山に関する内容等)【経年比較】</li> </ul>

## D-2. 指導上の改善点（理科）

### 1. 問題解決の能力(思考力・判断力・表現力)の育成

#### (1) 問題を見だし、予想や仮説を立て、実験を計画することの重視

- ・ 実験を計画する際には、予想や仮説を検証することや、比較対照実験の必要性に気付かせていくことが重要。
- ・ 実験を計画する際には、自分の考えの根拠を明確にしなが、具体的な観察道具や実験器具を想定したり、モデル図に表現して考えたりすることが必要。
- ・ 観察・実験において、計画通りに行えなかったり、予想通りの結果が得られなかったりする際には、予想や仮説を見直したり、検証計画を改善し、再度、観察・実験を行ったりすることが必要。

#### (2) 観察・実験の結果を整理し、問題や予想に照らし合わせて考察することの重視

- ・ 観察・実験の結果について考察し結論を導く際には、観察・実験の結果を表やグラフに整理して分析的に読み取らせる機会を設けることが重要。
- ・ 観察・実験の結果の考察により結論を導く際には、結果と結論の区別を明確にすることが必要。そのためには、問題や予想に立ち戻り、それに応じた考察を一人一人が行うようにすることが重要。

#### (3) 科学的な言葉や概念を使用することの重視

- ・ 科学的な見方や考え方を養うために、自ら予想したり、考察したりしたことを表現する際には、科学的な言葉や概念を適切に使用して説明できるようにすることが重要。
- ・ 科学的な言葉や概念を使用できるようにするためには、表、グラフ、図、絵、ICT機器の活用等により、思考やイメージを可視化し、児童に事象・現象に関わる科学的な言葉や概念を捉えさせることが必要。

### 2. 実際の自然や生活との関係を捉えることの重視

- ・ 実際の自然との関係を捉えさせる際には、自然の事象・現象の存在や変化に着目して、学習した知識を活用する学習を展開することが必要。
- ・ 実際の生活との関係に気付かせ、その仕組みを捉えさせる際には、生活への適用の場面を意図的に設定することが必要。

### 3. エネルギーの利用や環境保全に着目し考察することの重視

- ・ エネルギーの有効利用に着目できるようにするためには、光電池や発電機、発光ダイオード等の利点や、どのように利用されているのかを調べることが重要。
- ・ 「生物と環境」(第6学年)では、循環や相互依存等について着目して推論するなど、グローバルな視点で環境保全を捉えられるような指導の工夫が必要。

### 4. 観察・実験の技能の育成

- ・ 観察・実験を実施する際には、できる限り個人やペアで器具や道具の操作を行えるようにすると同時に、グループで行うときには、役割を固定せず交代するなど、児童一人一人が観察・実験の技能を習得できるようにすることが必要。
- ・ 信頼性の高いデータを得るために必要な実験技能を確実に習得できるように指導の工夫・改善を図ることが重要。また、観察や実験を安全に行うために、器具の正しい操作方法を板書やポスター等で徹底して指導すること等が重要。